

# 北海道医歌人会詠草

## 歴史の方程式

鉦路 兎玉 昌彦

混乱と窮乏の淵より救いたるヒーローの持つ独裁者の蔭  
大いなる力をのぞむ民衆に大国の夢語りて倦まず  
祖国をば護らんがため侵略も止むなしという開戦論理  
謀略と血であがないし権力の末路は必至と知りつつもなお  
戦争の被害と加害の両面をよみがえらせる歴史の記憶

## ウクライナ侵攻 (2)

北広島 古屋雅三知

ネオナチと呼びて仕掛けし侵攻の大義の無きは明らかなりき  
ブダペスト 核放棄せし条約は平和の証し 契りしものを  
ヒトラー・ユーゲントの幻影彷彿と街練り歩く若者の群れ  
戦火の下 いつも犠牲になりしもの 敵味方なく無辜の民人  
殺戮と砲撃による廃墟にて日に日に増える十字架の教

## 茄子の花

函館 水関 清

さらさらと さつきの今が積もりゆく 捕らえきれない無量の刹那  
ペランダにぎつしり干されし白シャツの ひるがえりつつ 光を弾く  
陽光を求めて 神田川渡る 赤い車体の丸の内線  
立ち合いの当たりが 相手に伝わりと覚りし横綱 白星街道  
たわみつつ いつも平衡保ちある 地球という名のバランスボール

## 華燭

士別 竹内 幹夫

払暁に蕾固き地より南下して 満開の山いつか窓下に  
新緑の眩しき街を通る時 波に乗り交ふ若者見ゆる  
延喜式の古き社で誓ひして 天摩才高殿宴する今  
筆葉の一笛若葉を揺るがしぬ 格天井の鳳閣に  
高殿の宴も今は閑に 白無垢染むる青嵐の空

## なつかしき昭和

滝川 村田 英俊

こどもらは紙芝居屋の拍子木に 飛んで行きたしテレビ持たぬゆえ  
自転車ハンドルのとられし友人に 車から罵声の響く砂利道  
先輩の鞆に在りし『室生犀星詩集』は 思春期なれば聖書の如し  
井戸端に戦前からある長柄杓 持ち手にうつつら「正吉」の名あり  
雪どけに馬糞の風に舞いし道 我が海馬には今も残りおり

## 春の花

江別 三宅 浩次

様々な花咲き乱れ北国の春の楽しさ胸の温もり  
咲く花は青春の日のひと時を想い起さず魔法の不思議  
同じ位置に今年も芽を出すアイヌ葱個性の強さ香りの強さ  
水仙は自己を愛する象徴と言われているもわれには分ならず  
花卉では大きき誇る牡丹花は散るとき哀し土に還るも

## ドクダミ

札幌 浜島 泉

父が詠みこよなく愛でしドクダミを供へんとすに 今年はずし  
朝のバス常客乗らぬ 世上言ふワークシステム改革故か  
パズル解く過ち一つ糺すより 次つぎ明きて全て開きつ  
三日ほど歌詠みを欠く 途絶へてはならじ暮らしを整へんとす  
街角の幼児預け所 出勤の自転車が来て賑はひ始む